

## 2018 年度春学期 日本語教育特別講演会 & 懇談会

講師：牧野成一 プリンストン大学名誉教授

日時：2018 年 7 月 14 日(土)

場所：国際教養大学(D101・D102 教室)

大学 URL：<http://web.aiu.ac.jp/>

使用言語：日本語



スケジュール：

午前の部(10:30-12:00)

牧野先生によるご講演及び質疑応答

午後の部(2:00-3:30)

牧野先生を囲んでの懇談会(講演の内容や、その他日本語教育に関わる様々なトピックについて、ざっくばらんな意見交換をしていただきます)

演題：「言語と文学を結びつける文体論 - 夏目漱石の未完の小説『明暗』の場合 - 」

人間の言語行動と非言語行動には人間に普遍的な部分と個人的な部分があります。ソシュール・ド・ソシュールというフランスの言語学者(1857-1913)は言語に関して普遍的な部分を *langue*(ラング)と呼び、個人的な部分を *parole*(パロール)と呼んでいます。大事な点はパロールはラングの決まりの中から個人的に選び取って生まれるということです。このことはソシュールの死後 1916 年に彼の弟子が纏め上げた *Cours de linguistique générale*(『一般言語学講義』)に出て来ます。

そこで文体とは何かというと話し手・書き手が自分の言語の決まりの中から特徴的な選択をして話す・書くことから生まれる特徴の束です。本講演では書き手に夏目漱石を選び、さらに、彼の未完の作品『明暗』(1916)でどのような文体を使ったかの一部を取り出します。実は『明暗』を完成させた作品は水村美苗(みずむら・みなえ)の『続 明暗』(1990)と桑川光樹(くめかわ・みつぎ)の『明暗ある終章』(2009)の二つがあり、今回は水村の続編を分析の対象にして、漱石の文体を水村がどのように移し変えているのかを検討し、その過程で言語と文学を結びつけていきます。

参加費：無料

参加ご希望の方は、講演前日午後 5 時までに本学教務課教務チームまでお電話、FAX、Eメールのいずれかにてお知らせください(事前の申し込みがなくても参加できます)。

TEL:018-886-5938 FAX:018-886-5910

Email：[academicaffairs@gl.aiu.ac.jp](mailto:academicaffairs@gl.aiu.ac.jp)